

市民と市議会との意見交換会開催結果（概要）

テーマ コンパクトな住み良いまちづくりについて考えよう！

1. 港や駅前の魅力を見いだすには
2. 若者や子育て世代が定住するには

開催日時	令和7年10月21日（火） 午後7時から午後9時まで
開催場所	枕崎市市民会館 第1会議室
参加者数	20名（議員10名は除く）

今回の意見交換会は、昨年に引き続きワークショップ形式で行われ、20名の市民の方々が参加しました。

議員と市民が同じテーブルで意見を交わすことで、日頃感じている地域の課題やまちづくりへの思いを共有し、フラットな対話を通じて、前向きに意見交換ができる場を作ることをねらいとしています。

進行役には、昨年に続いて鹿児島健康経営アドバイザー協会代表・上村ひさみ氏をお招きし、温かく活発な雰囲気の中で意見交換が行われました。

10名の議員全員がそれぞれ1つのテーブルに入り、市民2名ずつとともに計10グループを構成。「コンパクトな住み良いまちづくりについて考えよう！」を共通テーマに、

1. 港や駅前の魅力を見いだすには
2. 若者や子育て世代が定住するには

という二つの視点から、それぞれの感じている課題や提案を語り合いました。

グループ内では、日常生活で感じる小さな疑問から将来に向けたまちづくりのアイデアまで、世代や立場を超えた意見が活発に出され、昨年同様、各テーブルで出た意見をまとめ、発表を行いました。

1. 住み良いまち（現在住んでいて感じていること）

まず初めに、各テーブルでの自己紹介を行い、住み良いまち（現在住んでいて感じていること）を紙に記入し、テーブルの中央に出しながら1人ずつ話す時間が設けられました。

- ・生まれた時から住んでいるので、どこよりも住みやすい（時間がゆったり流れる感じで心地よい）
- ・近年の異常気象を見ていると、枕崎は他の地域と比べると最高気温、最低気温の差が少ないので生活しやすい。（海が近いのが原因だと思う）
- ・道路が便利よく災害に強いこと。（自然環境が豊かなことが原因だと思う）
- ・生まれ育ったまち

- ・本土南端に位置するが住めば都、人口が少ない割にはスーパー・量販店等があるので助かる。
- ・自然が豊か、人の心根の良さ、物価安、静寂さ、食べ物の美味しさ等があるが、まだまだ改善・新設するべき点が多い。
- ・枕崎市は特産品が多く、特に採れたてのお魚や鹿籠豚など(食のまち枕崎)といわれるほど食べ物が美味しいまちで地域ブランド品としてもっとピーアールしていくべき。
- ・災害が今は少なく安心安全な街である
- ・道路が広く通行しやすい
- ・食や自然が豊か
- ・子どもたちのあいさつが気持ちいい
- ・地域の住民のつながりがある。「若者・ばか者・よそ者」という言葉がある。地域のつながりの中にそのような人を受け入れる余地があるともっと枕崎が盛り上がる。
- ・まち全体がゆったりしている
- ・海が身近にある
- ・関係性の近さ。都会・マンションに住んでいた時は隣近所でも顔が見えなかった。
- ・とにかく景色がよい。・魚が美味しく火之神海岸から望む開聞岳は最高である。
- ・もう少し枕崎をPRして欲しい。
- ・カツオ、電照菊等
- ・台風が来なければ、温暖な気候で住みやすい土地である。
- ・医療介護の充実とUターン者の増大が課題だが、反面、火之神公園やトイレが綺麗だが、宿泊施設が少ないので問題である。
- ・気候が良い。・公園が多い。
- ・物々交換ができるところ。(人ととの交流が生まれるからいいと思う。)
- ・自然、環境が豊か(歴史があること)

2. 「インタウンデザイナー」になり、話し合う。

次に、各グループごとに①②のテーマに分かれて、それぞれが語り合い発表しました。

テーマ①：港と駅前の魅力を見出すには

Aグループ

①個々の意見

- ・駅通りがシャッター通りになっている。
- ・枕崎駅についてはJRとタイアップして鉄道の良さをPRする。
(先ず人を呼ぶには、どうするか?それを見出す。人目を引くイベント等)
- ・大型店が進出したが為に小売店が消えた。
- ・最南端の終始駅らしい。南国情緒の感じられる植樹等を施し、外観の景観、駅前から港まで、ヤシ並木の街道。
- ・月一回、駅前通りを車両通行止めにして朝市やフリーマーケットの実施。
- ・枕崎の沖220キロメートル先に沈む大和をテーマの1つに掲げ、平和資料館を将来建設。
- ・豪華客船が入港・停泊できる港の整備を！

②まとめ

私たちは求心力ある中心市街地のために、【JRが存在する意義】を大切に考え、そして【賑わいを醸し出す為にイベント等が常時行なえるよう】な機能を持つまちづくりをします。

Bグループ

①個々の意見

- ・鹿児島市からの交通の便が悪いことから(乗車時間が長過ぎる)JR指宿～枕崎線に特急もしくは準急行の電車を走らせることによって、観光客や交流人口、関係人口の増加が見込めるのではないかとの意見が出された。
- ・また先を見据えて漁港やまちの発展を考えるとコンテナヤードの誘致が必要不可欠であり、枕崎の発展や雇用創出にもつながっていくとの意見が出された。

②まとめ

私たちは求心力ある中心市街地のために、【交通の利便性を考慮し交流人口や関係人口、地元住民の交通網の確保】を大切に考え、そして【コンパクトシティで商業施設への周遊や観光が快適にできる様】な機能を持つまちづくりをします。

理由など：枕崎市の地理は薩摩半島でも僻地とも言われており、県外から枕崎に来られる方は遠すぎるという声を聞く。もっと時間短縮できるようにインフラ整備を進めていくべきだと考える。

Cグループ

②まとめ

私たちは求心力ある中心市街地のために、【動線】を大切に考え、そして【魅力的な観光資源やインフラの整備が整った】機能を持つまちづくりをします。

理由など：来て見て良かったと思ってもらえるように、観光しやすい看板設置や移動手段を便利にそして割引券やクーポン券の配布などまた花いっぱいの町だと喜んでもらえる。また、列車内や到着した時に茶節の提供もいい。

Dグループ

①個々の意見

- ・指宿枕崎線の列車に各沿線地域のラッピングをし、列車内でお茶やダシの振る舞いをしたら良いと思う。
- ・駅通りの空家を活用し、通り会によるおもてなしをしたらどうか。そのためには、地域活性化の為の補助金等が有れば良いのに。
- ・指宿枕崎線を利用した人への商品割引券の発行。
- ・もっと観光案内所を活用し、ブエンマン、キバッヂョのキャラクターを幼稚園等へ貸し出したら良いのに。

②まとめ

私たちは求心力ある中心市街地のために、【JR指宿枕崎線】を大切に考え、そして【観光客とUターン者増大】な機能を持つまちづくりをします。

Eグループ

①個々の意見

見るところがない。芸術の町というわりに町が汚い。色々見るところがあると言うがまとまりがなくバラバラ。駅周辺に魅力がない。公民館にも町の清掃に参加してほしい。10年・20年後では遅い。今すぐ取り掛かるべきだ。

②まとめ

私たちは求心力ある中心市街地のために、【見える化】を大切に考え、そして【先ずは、観光・食事・買い物するのに分かりやすいルート】な機能を持つまちづくりをします。
理由など：枕崎にアレもコレもあると言っても他の人には分からないので先ずは、明確に観光ルートを示すべきだ、そこから広げていけば良い。

Fグループ

①個々の意見

コスモス、畑やチューリップを畑を作る。プランターでもいいので花いっぱいにする。

②まとめ

私たちは求心力ある中心市街地のために、【人のにぎわいと交流】を大切に考え、そして【駅前の花畠が持続的】な機能を持つまちづくりをします。

Gグループ

②まとめ

港にイルミネーションを増やす。

水産高校美術部により、港の海岸を壁画修復。

缶詰工場の誘致。

お魚センターを中心に再開発。

外国人と日本人の共生について整理すべきである。

枕崎市の中心となるメイン通りを位置づける。

駅通りの徹底見直しをする。

駅前通りの歩道を一部駐車場化する。

駅や港で、地域活性化のためのボランティアを育成する。

テーマ②：若者や子育て世代が定住するには

Hグループ

①個々の意見

若い世代の働く場所が必要。

物価が上がっているので子育て支援が必要。

②まとめ

私たちは子育て世代が枕崎に定住するためには、もっと【働く企業】を【増やす】ことが大切だと考えます。

理由など：安定した収入源の確保。地元に良い仕事があると言う安心感は、子育て世帯がその土地に長く住み続けるために必要である。企業が増えると、法人税等税収が増加し、これにより自治体は子育て支援策や教育環境の改善など、子育て世代が必要とする公共サービスに多くの財源を投じることができる。

Iグループ

②まとめ

- ・坊津の例から見るとIターン者が多い現状がある。インターネットで調べてやってきた人、奥様の故郷に帰ってきた人などが多くいるが、ポイントとしては、来た人が外に広げて、人をつなげているところ。
- ・繋げられる情報を蓄積して分析することも大事。枕崎を出て行く人には「何が不満だったか」枕崎に来た人には「何がいいと思ってきたのか」聞く機会を持つべき。
- ・子育て支援の充実はもとより、現在の補助の仕組みを考え直し、高齢者の運転免許返上にも手厚く補助するなど、高齢者の支援の仕組みを考えしていくことも大事。

Jグループ

②まとめ

大きな会社、工場があれば良い。

金銭的支援をする。

良い職場（環境、手取り額など）＝市の支援が必要、財源確保が大きな課題

雇用と住居支援、移住支援金、結婚新生活支援は事業としてあるが、やはりその額

3. フリートーク&ヒアリングの中で得られた意見

- ・塩屋地区のゴミステーションの分別が出来ていない。
- ・行政の指導と、地域住民による自治的な管理協力が一体となることが必要不可欠であるが防犯カメラも設置しているが中々改善しない状況。
- ・南淡路との防災協定、交流会について。
- ・物産交流は、単なる販売の機会の創出にとどまらず、地域産品の新たな価値創造や市民間の相互理解を深める文化交流の役割も果たしている。この連携は、民間「農協」のつながりを行政が後押しし、経済「物産」と防災「協定」の両面で、地域を強靭化する好事例です。
- ・漁師の交流イベントや子供の食育や家族の思い出作りに最適です。子育て世代の皆様にぜひ積極的にご参加いただきたいです。
- ・物産交流の場は、遠く離れた協定地域とのつながりを感じる貴重な機会です。子育て世代の皆様にも、この交流を存分に楽しんでいただくことが、地域への愛着を深めていくことだと考えます。
- ・垂れ幕や横断幕が統一されていないので、運営を行政にお願いできないのか。休日に国旗をあげる取り組みを広げてほしい。小学生のあいさつを見習って枕崎をあいさつの響く町にしてほしい。

- ・給食費無料化をすすめてほしい。空き家・空き地利用を考えてほしい。
- ・グループトークの内容も、AIに聞かせてまとめさせると効率化につながる。提案もしてくれる。もっと今できることを最大限利用して物事を進めるべき。
- ・養豚場跡地を花畠にしよう。
- ・駅通りの空家の再利用。
- ・何をするにも遅い。何をしているのかが見えてこない。悪くはなるが、良くなっている感じが全くしない。意見を聞かせてくれと言いながら、意見はどこかに行っている。私たちは答えがほしい。テーマが、いつも決まっているが他にも沢山の不満聞きたいことがある。1年に1回では、不満は解消しないので2ヶ月に1回開催すべきだ。枕崎は終わりだと思う。
- ・昨年行われた市民と語る会の中で火之神養豚跡地の話がどうなったのかを知りたい。このような場で昨年の報告をするべきではないか。
- ・給食費無償化に対して議会で話し合われたことの市長の答弁は政策ではないのではないか。

4. 各議員の意見・総括

今回のワークショップ形式での意見交換会を実施したことで出された、議員の率直な意見をまとめました。

- ・開会前に一人の参加者が騒ぎ出し混乱しそうになったが、議運委員長の冷静かつ勇気ある行動で最悪の事態はさけられた。ある程度、想定された事ではあったが他の参加者たちにたいした影響がなかったのは幸いだったが次回開催する場合は、さらなる対策が必要。
- ・私たち5テーブルは70代前半と60代前半の男性お二人でとても紳士的で和やかに話が進み、まちづくりの話でも現実を踏まえながら前向きに夢を語って頂いた。
- ・若者、子育て世代が魅力を感じて、住み続けるには、他者と比較する事はいかがと思うが、充実を感じること、将来に不安を感じないこと、支援事業等に差があること自体が問題であり、意見交換会の中で得たことを実現するには、財源確保が課題である。
- ・枕崎は労働の質を高めることが重要である。
- ・「新規雇用創出環境改善事業補助」は市内業者には好評とのことは議場での答弁、また直接聞いている。
- ・賃金、福利厚生は優先課題あり、企業感の相乗効果は必要である。誘致にもつながる。
- ・昨年と比較して参加者が少なく、意見や提案があまりでなかったが枕崎の良い所ではなく悪い点を指摘された。
- ・学校給食費の無償化や人口減少問題など喫緊の課題について早急に取り組んで欲しいとのご意見が出された。
- ・定住の最大の基盤は、経済的な安定が必要、充実した子育て環境教育があること。
- ・生活の利便性と安全が確保されていること。
- ・豊かな地域とのつながりがあることが必要。物理的な環境だけでなく、精神的な安心感定住には不可欠だと考える。

- ・災害が少なく地域との繋がりあり安心して子育てが出来るのは枕崎だと思う。
- ・食育の面でも、新鮮な食材に恵まれているので、住まいとしての空き家利用。
- ・施設としての空き家利用等していく必要があると考える。
- ・昨年の意見交換会の報告がほしかったという意見があったが、これは反省点だった。
- ・開始前から市民の方が不満を言われて議員の大半がその対応に追われた。結局、委員長の席に座り最後まで参加されたが、委員長も終始宥めて大変だった。また、上村先生の円滑な進行で大きな問題も生じず時間通りに進んだが、事務局職員や議員は意見交換会が終了するまで緊張が抜けなかったのではないだろうか。
- ・参加については、一部、「そのような方(意見交換会の中で文句や苦情を言う)が来られるようであれば行っても不快な思いをするので行かない」という意見もあった。
- ・今後は、市民また議員にとっても有意義な意見交換会になるように他の方法を考える必要がある。
- ・今回も若者の参加ほとんどなかった。若者をターゲットとした周知活動が必要。SNSでの周知は必須。
- ・防災無線・メールの周知において、当日のテーマとワークショップ形式で行うことまで周知することで意見交換会のイメージが湧きやすくする工夫も必要。10月21日は国際反戦デーであるから、そのことについて話をするために来たという高齢者もおられた。
- ・「インタウンデザイナー」など、カタカナ言葉は若者には理解できるかもしれないが、高齢者になるほどイメージが捉えられにくいようだった。
- ・資料を読みこなす時間はほぼ無かった。円滑な意見交換のために、SNSで当日配布予定の資料の事前展開、あるいは紙資料を必要とする方には、事前申し込みの上、議会事務局で交付などより、当日スムーズに意見が出せるような環境作りも必要かと考える。
- ・テーマはひとつに絞るべきだった。
- ・とにかく私達のグループは、枕崎愛の方々が集まっていた。しかし、枕崎の問題点等を認識されており、納得いくご意見等を伺えた。またこれからの枕崎に大いに期待するとのお言葉も頂いた。
- ・1時間半市議会議員・市役所への不満を訴えておられましたので、テーマを深掘りする所までは難しいでした。
- ・年々、若い人の参加が少なくなってきた印象。年齢層を分けて開催し、各年代ごとに話しやすいテーマを設定して開催することも検討することもいいのではないか。
- ・以前参加していただいた方から、「グループでの話し合いの中であまり良い気分になれなかった」とのご意見をいただいた。このことから、グループでの話し合いの場をより良くつくることが今後の課題であると感じている。また、こうした雰囲気づくりが、その後の継続的な参加にも大きく関わってくると考えられる。
- ・市民と市議会との意見交換会も昨年のテーマは火之神養豚地跡の活用について、その後の報告が欲しかったとのご意見があったが市報だけではなく、個々の議員が近況報告などもっと積極的に議員活動をしていかなければいけないと感じた。